



高齢者が標的となりやすい電話による詐欺被害を防止

千葉県遊技業協同組合

「『電話de詐欺』事案の被害未然防止支援」事業



千葉県遊技業協同組合
理事長
田中 幸也さん



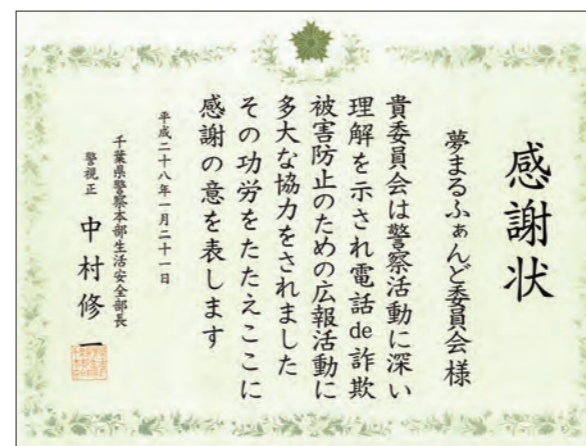
新聞に掲載した告知広告

広報用新名称に「電話de詐欺」が決定

連日のように報道されているにもかかわらず、高齢者を狙った振り込め詐欺などの特殊詐欺の被害が無くなる気配がない。警察庁の発表によれば、2015年の被害額は476億8,000万円で、過去最悪だった前年より減少しているが、認知件数自体は1万3828件と増加を続けている。さらに、最近では還付金詐欺、劇場型詐欺など、その手口も巧妙化、複雑化してきている。

千葉県では、昨年まで3年連続で被害額が30億円を超え、厳しい状況が続いている。しかも被害者のほぼ1/3は70代の女性で、依然として高齢女性が詐欺の標的となっている。この種の犯罪を撲滅するため、森田健作県知事が先頭に立って被害防止を訴えるとともに、県警察も最重要課題として取り組んでいるが、その一環として昨年、県民への浸透を目的に特殊詐欺の実態に即した新しい広報用名称を募集し、8月1日に「電話de詐欺」に決定した。全国の警察では独自の名称を考案して使用しているが、アルファベット入りの名称は初めてだという。

こうした動きに呼応して、千葉県遊技業協同組合（以下、千遊協）では県警察本部などと連携を図り、広報活動によって未然防止策を周知徹底する取り組みに着手した。なお、この取り組みは、千遊協が社会貢献活動を推進するため、2005年に県内メディア3社（千葉日報、千葉テレビ、ベイエフエム）と組織した夢まるふぁんど委員会が実施主体と



千葉県警察本部生活安全部長から贈られた感謝状



寄贈した防犯パトカー用の車載拡声器を搭載した車両



防犯パトロールカー贈呈式

なり、地域振興支援事業の一環として実施された。「夢まるふぁんど」は、千遊協加盟ホールの遊技客から提供されたこぼれ玉や余り玉を原資として積み立てた基金で、それを社会貢献活動として、福祉事業、地域振興事業、文化国際事業の3分野に拠出するものである。

「電話de詐欺」周知のための広報活動に尽力

広報活動の具体的内容だが、「千葉県警察と夢まるふぁんど委員会からのお知らせ」として地元紙である千葉日報の紙面において「振り込め詐欺にご注意を」と題した告知広告（半5段）を昨年1月から7月まで計47回にわたって掲載した。新名称の決定以降は、その普及と周知を目指して「電話de詐欺に注意!」にコピーを変更し、計23回掲載した。同様に、千葉テレビでは15秒CMを計350回放映、ベイエフエムでは40秒CMを計207回放送した（うち23回は、還付金詐欺防止編）。

さらに、市町村による防犯パトロールカー（通称、青パト）を活用しての広報活動を支援するため、千葉市花見川区、成田市、八街市、白子町、大多喜町の5市区町へ各1台ずつ防犯パトカーを寄贈した。県内市区町村に対する防犯パトカーの寄贈は、夢まるふぁんど設立以来続けている活動であり、昨年で計50台となった。また、柏市などの4市町に対して、防犯パトカー用の車載拡声器を10台寄贈した。車載拡声器は県知事からの要請を受けたもので、その必要性などについて県と協議したうえで、未装備であった4市町の防犯パトカーに装備することになったものである。10月27日に県庁前羽衣公園で行われた寄贈式の模様は、千葉日報、千葉テレビなどで報道された。

こうした活動の1つの成果と思われるが、千葉県では昨年、過去最高を記録した前年よりも「電話de詐欺」事案の発生が件数にして164件、被害額にして約16億7700万円減少した。夢まるふぁんど委員会の活動は関係機関からも高い評価を受け、2016年1月21日付で千葉県警察本部生活安全部長から感謝状が贈られた。